

1 審議会名	武石地域協議会
2 日 時	令和3年11月17日 午後7時00分から午後8時20分まで
3 会 場	武石地域総合センター3階 大会議室
4 出 席 者	池内俊郎会長、金子るり子副会長、伊藤定衛委員、岡村正徳委員、金井修一委員、金井律子委員、川合節子委員、小林明美委員、小山ひろえ委員、桜井敏雄委員、城下昌史委員、橋詰明德委員、橋詰正江委員、宮下覚委員【欠席委員 5名】
5 市側出席者	下村地域自治センター長、滝沢地域振興課長、樋口教育事務所長、半田教育事務所次長、小山市民サービス課長、佐藤産業建設課長、宮下商工担当係長、杉浦丸子・武石上下水道課長、若木地域政策担当係長、鈴木地域担当職員、増田地域政策担当
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍 聴 者	0人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和3年11月30日
協 議 事 項 等	

1 開 会 (金子副会長)	
2 あいさつ (池内会長)	本日は、項目的には普段どおり、内容的には報告事項等多い。
3 報告・協議事項	
(1) 令和4年度当初予算における地域振興事業基金充当事業について (地域振興課長、教育事務所長、産業建設課長説明)	
地域振興課長	<p>地域自治センターでは、来年度予算の計上を各課で行い、先般財政部長のヒアリングを実施した。</p> <p>来年度予算の計上に当たり、持寄り基金である地域振興事業基金の活用を財源に充当する事業ということで、一覧にした。</p> <p>持寄り基金である地域振興事業基金を活用する場合は、地域協議会に意見を聞くという規定があることから、来年度の予算に査定段階で地域協議会の意見を伺うため今回提案をした。</p> <p>来年度の事業については、6事業、新規が2件、継続が4件である。示した事業予算額、基金充当額は、担当課からの要求額で、内示前の金額であり、この査定で金額が変更される可能性もある。最終的な決定は3月の市議会議員定例会で決定される。</p> <p>地域振興課については、No.1の地域振興対策事業の関係で、武石の御柱おねり行事の負担金となる。事業予算額、150万、そのうち基金充当額、100万円となる。おねり行事实行委員会への負担金となる。政教分離の観点から神事には立ち入りできないのであくまでも、おねり行事の関連行事に充てるというものの負担金である。参考に、前回の御柱の関係についても、おねり行事への負担金ということで、同額、使用している。</p>
教育事務所長	<p>続いてNo.2について、事業は文化財事業ということで、同じく御柱大祭における、おねり行列に係る文化財、これは上田市の指定文化財になっているので、文化財に対する保護事業の補助金ということで、予算120万円のところ、基金から80万円の充当ということで予算立てしている。主に80万の使い道ですが、おねりの道具、事業後のクリーニング代等になる。</p>
産業建設課長	<p>続いて、産業建設課からNo.3からNo.6の事業について説明します。</p> <p>平成21年度、地域協議会からの提言を受け、武石地域全域で公園化構想推進事業として位置付けられており、毎年継続事業として地域振興事業基金を繰入れる。</p> <p>No.3の事業の関係については、遊休荒廃農地再活性化事業 112万4千円の事業の内923万円を充当し、自治会で破砕機、乗用草刈機等の機械の貸出し、それにより自治会の皆さんに周辺の環境整備を実施する機械の維持管理、運営費用に使う。</p> <p>No.4につきましては、林業振興事業ということであるが、林道、遊歩道の軽微な補修や支</p>

障木の伐採等の事業である。このうち、有害鳥獣防除対策事業費は、自治会が新規に設置する獣害柵に5万円の充当をする。

No.5について、緑化推進事業ということで、地域内の公園や桜並木の維持管理、また景観の整備の実証などを行っているが、そのうち、公園化構想推進事業として、希望自治会へ配布する苗木、自治会長会でお願いしたとおり、希望自治会へは、花木の配布ということで、このうち、150万円を充当する。また、東日本台風災害や今年お盆の豪雨災害で、福寿草群生地やあじさい公園が被災し、この二つに関し今後どのようにしていくかは、まだ不透明である。

No.6の公園緑地管理事業については、ともしび公園、武石公園、河川公園の環境整備や維持管理を実施しているもので、10万円を充当する。この10万円については、小沢根川先の桜並木の除草等作業等実施に充てる。

【質疑等】

会長 1番2番について、どちらも「御柱おねり事業」に関する部分で、2つの部分から資金が充当されるが、この違いは、先ほど教育事務所の方から道具代やクリーニング代に使うと話があったが、地域振興課の方から出る100万については、教育委員会の方の80万と用途別に科目を分けて管理するのか。

地域振興課長 そのとおり。

両方とも、補助金、負担金支出の相手先は、御柱おねり行事实行委員会に入るが、あくまでも、教育委員会の部分については、おねり行列の部分に使うということであり、地域振興課の部分については、その他、おねり行事当日に係る経費、当日の仮設の設置やテントという共通経費的などところに充当し、明確には、同じ会計になるので、線引きはしていないが、使い分けている。

総事業費に対して補助金を確保するために、昔からこのような方法で、負担金と補助金と分けてきた経過がある。

負担金、補助金の性格で使い方を分けて支出してきた。

会長 それぞれでサポートするのは、全く問題ない事だと思う。

実行委員会の方で、きちんと仕分けをし、100万使った、80万使ったと分かればよいと思う。

No.3、4、5、6については、今年度の執行を見越しての充当額を想定しているのか。

産業建設課長 そのとおり。

会長 承知した。

4年度は総額で435万円という支出金額が基金から充てられ、3年度は447万円と若干少ないが、同額程度である。

委員 合併から18年程経つが、その間に1億7千万ほどの支出がある。このままのペースで支出していくと、20年程で終わってしまう。もう少し議論して使っていくらどうか。

会長 過去の分を見ると、地域振興課の方で総括していると思うが、毎年こういった形で年度ごとに消化していく事業に投入していき、レガシーが残るようなことはなかったと思うが。

地域振興課長 そのとおり。毎年地域協議会へ諮り基金を取り崩している。この持寄り基金の使い方については、賛否両論あり、「早く使え」という考えもある一方で「よく考えて使え」という考えもある。ただ、新市になって大分経ち、基金のあり方についても、もう少し見直しをしていった方がいいのではないかとこの監査の方からの意見もあるので、今後使い方についても、もう少し検討するような形にはなると思う。

ただ、武石地域としても、武石地域のために一番いい使い方というのを今まで考えてきたので、これをいっぺんに使ってしまったら、あともう何も事業ができないということもいけないので、今後、監査の意見を加味しながら、地域協議会の方で意見を頂きたい。

会長 変則的に、少しずつ使っていくと、最終的に何に使ってきたということになってしまうので、使い方の方向をきちんと決めて使っていく、形を残したい。形が消えるものであっても使っていかななくてはいけないモノもあると思う。それは明確にメリハリをつけ

て使っていくという経過だと思います。何にどう使うのかということは、何処かで一度固めた方がいいのかなという気がする。ただ、だいたいの方向性は今までもあると思うが、どこかで一度協議することにする。

地域振興課長

地域振興基金については、上田市全体の見解で、こういうところに使うという、一応おおまかな決まりがある。過去に一番使ったのが、エリアトークの導入である。これは武石独自の取組であり、なかなか本庁の方から予算付けができないということもあり地域性の強い事業でした。こんな経過もあり、この先なかなか事業がみえないこともある。武石地域で、雲溪荘なり、いろんな施設の課題もあり、そこに投入したらという意見もある中で、皆が納得するような所に使わなければいけないと思っており、慎重に地域協議会の意見を伺いながら活用を図っていきたいと考える。

会長

エリアトークは3,000万近く基金から出した。なかなか厳しい条件が市から付いたが、何とかクリアして購入できたと思う。また、地域協議会の中で、こういった使い方という意見があれば出してもらい、いずれにしても、また、年度末に向けてこういった議題が出てくると思うので、また、そこで議論していけばよいと思う。

(2) 武石公民館図書室及び学習室の運用について（教育事務所長説明）

教育事務所長

《アンケート結果の報告》

○郵送による武石公民館図書室の利用に関するアンケート調査結果について

武石地域15歳以上の住民を無作為に抽出し、500人の方に送付して行った。

- ・調査期間は9月下旬から10月末まで
- ・回答率 39.6%
- ・利用率 37.3%（9割が年に数回） 子どもや孫と一緒に利用が多い。
- ・丸子図書館の利用が多い。
- ・他の図書館を利用する理由：開館日や開館時間が便利、買い物のついで、スーパーが近くにある、病院が近い。

今後は、休日の開館、開館時間の延長等で、利用者の促進を図れる可能性がある。

また、休日の開館、開館時間の延長等を実施しても4割の方は変わらないという回答もあるので、今後さらなる検討が必要と思われる。

「幅広いジャンルの本を揃える」という希望もあるが、増やすということは相当なスペースと予算が必要となり、現状の体制では課題も多く、これについては他の図書館と連携して、補っていきたい。

○図書室を利用している方へのアンケート調査結果について

- ・調査期間 10月1日～10月末まで
- ・調査人数は14人

利用については、

- ・利用回数：月に数回の回答が多く
- ・利用時間：夕方15時から17時の間
- ・よく利用する他の図書館：丸子図書館

「休日の開館はうれしい」、「18時まで開館していれば仕事帰りによることができる」という意見があった。

職員の対応については、「満足」と答えている。

- ・図書室の資料、サービスについて

充実してほしいサービスとして、「図書の充実」、「お話し会や読み聞かせなどのイベントの充実」、「おすすめの本の紹介」、これについては現在広報などでやっていますが、まだPRが足りないと思う。

エコールについては、皆さん承知している。

インターネットによる蔵書の検索ですが、よく利用する方がほとんどでした。

館内の案内表示については普通という意見でした。

・読書の習慣について

ひと月1~5冊が多く、多い方で21冊以上の方が3人いた。

よく読む本のジャンルですが、文学、小説、趣味が多かった。その他にお子さん用に絵本の方も3人いました。

・子供の読書週間を育むには何が必要ですか

「家庭での読書の習慣」、「保育園、幼少期からの働きかけ」、「小学校、中学校からの働きかけ」、「身近な大人の働きかけ」が多かった。

・学習室について

「学習室の利用時間の拡大には非常に助かります」、「近くに夜遅くまで利用できる施設が無いのでありがたい」、「電源やWi-Fiの利用ができることも便利」ということでした。

このアンケートで利用者の方から見えてきたことは、郵送アンケートと同じで、休日の開館を望む声が多いと感じた。

また利用者は30代以上の女性が多く、保育園帰りのお母さんが多い傾向である。

【質疑等】

会長 郵送による武石公民館図書室の利用に関するアンケートの結果では60代の70代の方の回収率が多い。

60代の方のサンプリングすると

質問1「利用したことがあるか」に対して、あると答えた方が23%と、使ったことのない人の方が3倍近くと多い。

質問4「武石公民館図書室以外の図書館の利用はあるか」に対しては利用していない。この方々はどういう方なのか考えてみると、60代で利用しない人は32名、そもそも利用していないのが16名、残り16名はどうしたのかというと質問7「今後どのようになれば利用する、あるいは利用しやすいと思うか」の回答を見ると、休日・夜の開館、蔵書の関係の回答が多い。これを見ると今は利用していないがこういったところに魅力を感じれば16名が振り向いてもらえるかもしれない。開館時間、蔵書の関係にこの辺を満足させるサービス提供を行えば利用率が伸びるのではないか。資料の読み方についてはいろんな見方があるかと思うが、この資料の数字を見比べながら検討してほしい。チャンスを作っていけば、今利用していない方も振り向いてもらえるのではないかと思う。

作家の特集イベント的な企画など方法はあるかと思う。

委員 アンケートを10月1日から末までだったが、来年も同じアンケートを是非とってもらいたい。どう変化していくのかを知りたい。できれば、同じアンケートを10年間ぐらい取ってデータ化してほしい。そうすれば少しずつ定着してくるのではないか。

会長 公民館の職員は少し大変ですが検討してほしい。

皆さんもこの結果を見てもらい、何かいいアイデアがあれば出してほしい。

(3) 岳の湯温泉雲溪荘のあり方について(産業建設課長説明)

商工担当係長 雲溪荘のあり方を問うアンケートの結果について

趣旨：今後の雲溪荘のあり方の再検討をするため参考にする。

アンケート実施期間：6月28日に郵送、7月31日までに回答と延長した。

アンケートの実施方法：資料を郵送して、郵送で回収、エリアトークでアンケートの回収率を上げるように実施した。

アンケート対象者：1,050人の各年代、男女別。

回答状況は書いてある通り。

各戸から重複しないように1人、各年代男女75人ずつの無作抽出で行った。

18才から29歳女性は63人しかいなかったため、足りなかった分を各年代から抽出し同数としました。

回答率は、29.9% 314人と低く、雲溪荘に関心のない人が半数以上いることが予測される。

回答した年代で一番多かったのは、60歳代で45.1%、一番少ない年代は、18才から29歳で10.9%と年代が低くなるほど回答がない方が多くなる傾向がある。

今後のスケジュールについては、本日の結果の説明をし、来月の地域協議会でアンケート調査の結果を踏まえた意見を聴取したい。

その聴取した意見とアンケート結果を参考に市の方針を再検討する。

再検討の結果を、来年7月頃を目途に地域協議会へ諮問したいと考えている。

地域協議会の役割としては、地域住民の意見や要望を集約し、地域の重要事項の決定に意見を述べ、また、まちづくりの調査、研究を行うなど地域のまとまりを大切にしながら地域全体の発展を図るための活動をお願いします。

この、まちづくり研究というところで、皆さん独自で雲溪荘のあり方について取り組んでいると思いますので、引き続きお願いしたい。

アンケート結果や地域協議会からの意見を尊重し、可能な範囲で反映させたいと考えているが、様々な意見があり、半数以上の方が賛同する意見が無い状況。

雲溪荘はもとより、武石地域全体の発展につながるあり方を今後再検討するにあたり、参考としたい。

問2「3年間に雲溪荘を利用したことがありますか」に対して、宿泊、宴会、日帰り温泉で利用した人の割合は65.1%と半数を超えている。

重複回答のため、実際に利用した人の割合は54.5%となる。

利用した人で一番多かった年齢は70歳代で、78.1%、一番少なかった年齢は、30歳代で37.8%と年齢が低くなるほど利用したことのない人が多くなる傾向。

その一方、知らない、一度も利用したことがない人、その他未記入の割合は、34.8%と約3人に1人は雲溪荘を利用したことが無いことになる。

利用回数については、1回から3回が多く、年に1回程度利用する人が多いと推測される。

主な意見として、高齢者クラブ、会社の利用、自治会、区の行事、地区や役員の集まり、仲間の集まり、地元のお祭り、家族の祝い事、法事、兄弟会、楽しい会、懇親会、同級会、忘新年会、帰省した際の宿泊先

なお、各意見後ろのカッコ書きについては、10人以上が挙げた意見を多数、10人未満が少数、何もないのが一人の意見としている。

「泉質がととてもよくとても良い温泉、武石村時代よりの財産」等多数の意見がある。

逆に、「コロナウィルス感染症防止のため中止・自粛」、「施設が古い、お風呂に魅力がない、食事や接客が悪い」などの意見もある。

3ページ目、問3ですが、「雲溪荘は、地域住民の拠点施設として、地域内唯一の宿泊温泉施設として利用されてきましたが、近年は利用者が減少し、赤字相当分の、3,000万から5,000万円の指定管理料として、上田市から支出しているのが現状ですが、武石地域に必要な施設だと思いませんか」に対しては、「雲溪荘は必要、どちらかと言えば必要」と答えた人の割合は、65.6%と半数を超えている。必要と答えた年代で一番多いのは、60歳代で73.9%、一番少ないのは、18歳から29歳で46.6%と、こちらも年代が低くなるにつれて必要だと答えた割合が少なくなる傾向となっている。

また、60歳代と80歳代は、必要、どちらかと言えば必要を上回っております。

主な意見として、「武石地域で唯一の温泉宿は残してもらいたい」、「近くに宿泊施設があれば助かる」、「地域住民の憩いの場や、交流できる場、行事や大勢で宴会出来る場所は少ないので必要」。

逆の意見として、「赤字をつくってまで運営するのは健全ではない」、「税金を使ってまで宿泊施設を維持する必要はない」、「採算が取れていないし、近くにうつくしの湯があるので同じような施設は必要ない」などがある。

問4「雲溪荘が今後10年間維持管理しますと指定管理料や耐震診断、修繕費等を試算すると、総額は5億円以上となりますが、このまま維持管理することにおいて、あなたはどのように考えますか」に対して、主な回答ですが、「民間事業者へ貸出し」が25%と一番多く、続いて、「リニューアル、建物がある限り」となっているが、「建物がある限り10年間」と存続を要望した人の答えを合計すると35.9%となる。また、「民間事業者へ

貸出し」と答えた人の割合が特に多いのは、年齢は 40 歳代と 50 歳代となっている。主な意見として、「浴槽、露天風呂、エレベーターの設置、部屋にベッドやトイレ、リモートワークの環境などを整備し、リニューアルして価値を高めなければ集客は望めない」、「食事のメニューの改善、営業努力をして黒字になるような工夫をして存続をして欲しい」、「もう少し努力をして欲しい」

「民間事業者に貸出し」の意見が多数ある中で、「特養施設、高級温泉付き老健施設、有料老人ホーム、介護施設などの民間施設に貸し出す」などの意見がある。

反対の意見として、「経費が掛かりすぎる」、「地域活性化、子育て、高齢者福祉などに使っていて欲しい」などがある。

5 ページ目、「将来の武石地域の発展のためには、次のうちのサービスを充実してほしいと考えますか。3 位まで順位をつけてください」に対し、「雲溪荘を充実してほしい」と答えた人のポイントは、5 番目に多いが、同じ温泉施設のうつくしの湯の方が 3 番目に多い結果となっている。その差は 60 ポイントと僅差となっている。

最後 6 ページ

「その他にお気づきの点やご意見がありましたら、ご自由にご記入ください」に対しては、「岳の湯は、子供のころから当たり前のようにあった温泉で、思い出があるので、何とか残してほしい」、「なくならないで欲しいという気持ちはだれもが持っていると思います。でもそれは、無責任な感情論なのではないかとも思います。多額の管理料を考えたら、存続は難しいし、存続すべきではないと思います」、「早急に手を打つべきではないか。」という意見があり、大半の人が、雲溪荘に思い入れがあって、残してもらいたいという気持ちがある。

【質疑等】

会長 必要であるかないかの問 3 の質問の中で、肯定的にとらえれば 3 分の 2 の方は、残してもらいたい、必要であるという意見だが、それでは一体どうやって残すのかということだが、問 4 の質問の民間に貸出しが一番多いが、それ以外も含めて、これだけが決定的に多いというわけではなく、今のままで存続とか、10 年間は存続とか、リニューアルするとか、日帰りだけにするとか、宿泊の目的を変更するというようなことも含めて、様々な意見が散らばっている。これだけで 8 割を超えていく状態ですので、決定的な方向性というのはなかなか難しいと思います。民間に貸出しとはどういう意味合いで言っているのか、詳しくはどこにもありませんし、答えている方々も、イメージはバラバラだろうし・・・残したい人は 3 分の 2 いるのですが、残す方法としては、いろんな考え方があって、まとめていくには大変難しいと思う。

その中で、来月の協議会で、地域協議会としての方向性をある程度、議論して、固めていき、それをベースに 7 月ぐらいを目途に、諮問をかけていき答申を返す。来年度までの予算は付くが、その先はまだ未定のため、来年度早々に秋の議会で予算の審議がされるまでには方向性を決めないといけないというぎりぎりのスケジュールだと思う。

来月の協議会は重要となるので、みなさんのイメージを固めていただきたいと思う。

委員 ここにも書いてあるが、キャンプ場など、ソロキャンプが流行っているので都会の方たちに売り込んでもらうとか、隠れ家的な温泉宿のような、都会から来てもらう人たちが癒される施設のような感じでアピールしたらどうか。

会長 都会から来た人のニーズを活かすようなものということですかね。

意見欄にいろんな意見があって大変面白いが、逆にどういう提案してるのかという部分も若干ありますね。

参考までに、今の雲溪荘のお客様アンケートの実態を簡単に説明願いたい。

産業建設課長 昨年の 11 月頃から、雲溪荘を利用していただいたお客様にアンケートを実施した。直近の 7、8、9 月の中で延べ 200 人の方から回答をいただいた。回収率は半分になるが、男性が 47 名、女性が 44 名。

まず、雲溪荘を選んだ理由という質問に対しては、「温泉」46 人、次に多いのが、「料金」、3 番目に多いのが「料理」で 22 人となっている。

客室の感想としては、「とても良い」、「良い」と回答した方は、8 割から 9 割、非常に良

い評価をいただいている。

従業員の対応については、ほとんどの方が、「とても良い」という回答をいただいている。回答率が半分ということは、回答していない方については、何か満足いかなかった点があったということで、半分の方は、良いという印象で帰って行かれるのかなと思います。また、食事ですが、「朝食は若干不満」ということですが、夕食はとても良いと、良いということ 40 人ずつで、80 人以上の方は、非常に満足頂いているということでございます。

一方、朝食の評価は低くなり、「とても良い」、「良い」を含めると半分ちょっととなる。我々も宿泊して思うことは、当直、泊の方が朝食の準備を一人で行うという状況で、人が足りておらず、冷たい料理になってしまう。人出が増えれば、1品2品でも暖かい料理を提供することができるようになると思う。先日も10月末に「地域再生マネージャー事業」ということで、ふるさと財団から視察の方がみえ、皆さん男性で30代40代50代と若い方が含まれておりましたが、雲溪荘に宿泊した際に、温泉の泉質の良さ、夕食も食べきれないほどあったと、一方で朝食については、暖かいものがご飯とお味噌汁だけであり、もう1品手を加えて暖かいものを提供すればかなり印象が違うと、朝食については、「チェックアウト前の最後の食事になるので、最後に印象が悪いのは印象に残ってしまう。」ので、朝食はかなり大事なことだと感じた。そんな意見も伺った。

また、他のお客様からは、「客室は清掃が行き届いていて清潔感があり良かった」、「手作りの吊るし飾りも素敵だった」、従業員に対しても、「きめ細かい心遣い、親切な接客も良かった」、「お料理の方も種類が豊富で十分すぎる」という意見も伺っている。

いつ来ても食事が楽しみ、ということでリピーターの方もいるようです。

「お風呂も清掃が行き届いていて清潔感がありとても気持ち良い」、周辺の環境については、「川のせせらぎが癒される」、「昭和世代にとっては、非常に落ち着く宿」。

市内の方でも、「日常から離れてホッと一息つける宿である」といった意見を伺っている。その他の意見としては、「お客と従業員の距離が適度な距離を保ってくれるのでゆっくり休める」、「コロナ対策も十分できている」という意見も伺っている。

(会長) 昨年は地域協議会として「温泉に浸かって残そう雲溪荘」をスローガンに2回利用促進のチラシを配布した。今年は信州割(5,000円割引、2,000円のクーポン)と武石割(3,000円割引、2,000円のクーポン)という優遇措置が取られ、秋口から11月いっぱい雲溪荘は満室状態。信州割は若干残っている。その後の新しい企画をということだがGOTOキャンペーンの開始予定も見えていないのでそれに合わせたキャンペーンができるのかどうか、また別のプランができるのか分からない。毎年1月2月の落ち込みを補強できるようなキャンペーンが準備できればと考える。様子を見ながら12月あたりに地域の皆さんに案内できればと考える。

また、雲溪荘の人手不足で大変な状態であり、地域振興事業団で職員の募集をしている。皆さんの周りに声掛けをお願いしたい。

(事務局) ぜひお願いしたい。

(4) その他

第9回地域協議会の日程について

日時：令和3年12月15日(水)午後7時から

場所：武石地域総合センター 大会議室

5 閉会(金子副会長)